

【米田主宰の俳句】

花椒の香り

米田規子

詩はいつも遠くにありて春の草
落日のすさまじき赤冴返る
吾に風尖りくる日の梅白し
句集編む雨にきらきら桜の芽
水ぬるむ病院帰りの足軽く
春星のきらめく荒野しるべ無く
楓の芽この世の空気つめたかる
白粥にたまごを落とし春愁
花椒の香りのほのか朧月
一時間に一本のバス花の昼